

入来薪能の復活を期待

中西 喜彦



早いもので貞子さんが亡くなられて13回忌を迎えた。丁度本誌7号発行の時であった。平成23年4月に当時編集長をしておられた貞子さんから原稿依頼を頂いたが、5月2日におなくなりになるという悲しい出来事があった。重朝氏に発行の有無をお尋ねしたら「ぜひ続けましょう。貞子の供養にもなる」ということでした。そこで「貞子さんに誌上で再会」を旗じるしに現在に至っています。

本誌の会長も桐野三郎氏、渋谷繁樹氏、さらに4年前からは筆者が変わっております。

貞子さんは平成6年に東京から重朝氏の定年後の帰郷にさきだって入来に移住され

「入来花木会」を立ち上げて入来の文化振興に尽力されました。渋谷五族下向750年記念碑を設置、文化財「入来文書」の普及、

「入来茅葺門」の紹介、もう一つの文化財である「清色城跡」を背景に薪能を開催されました。平成11年に第1回が催しされ、平成17年まで毎年開催され、その後4年の休会ののち、平成22年から再開されました。この年の3月に筆者がお訪ねして謡曲連合会会報「風姿」に入来薪能の紹介をお願いしたのが最初の貞子さんとの出会いでした。

上述の活動の中で能は貞子さんが最も力を入れられたものです。嬉しいことに貞子さんが立ち上げた入来花木会が長女久子氏の努力で再興され今年で三年目を迎える。貞子さんの意図は、日本と西洋の近代社会までの社会の成立を知るには鎌倉時代から入来はもつとも良い研究対象であるということ、入

来文書の紹介さらに清色城跡での薪能の開催
を
実行されました。現在の日本文化を室町時
代に確立させた能を紹介することにより入来
の文化力を示し、町の振興を図られました。

能は五つのジャンルに分けられ、日本のめ
でたい話や武士の勇ましい戦いや色んな女性
の話や当時の日本の社会の有様、旧所名跡の
紹介などをしております。

その中の能「鳥追舟」は地元川内の話をも
とに作られたものです。貞子さんはこの「鳥
追舟」だけは薩摩川内市多目的広場で開催さ
れました。さらに貞子さんの勧めにより史跡
(鳥追の杜)近くの川内駅前「鳥追母子像」
の銅像が記念として教育委員会によって設置
されました。

また鹿児島県民交流センター(能舞台)が
平成15年に建設されて今年で20年目とい
う節目を迎えます。実は、筆者は貞子さんの

薪能の開催が県民交流センター能舞台設置の
引金になったのではないかと思っています。
薩摩藩は大藩といながら能舞台は一つもな
いといううわさを当時聞いていました。

鹿児島謡曲連合会は今年70回大会を迎
えます。一昨年鹿児島城御楼門復元を祝って
宝生流皓月会(石黒実都師主宰)によって祝
賀能「俊寛」が披露され、今年は謡曲連合会
との共催で能「鳥追」が鹿児島県民交流セン
ターで演じられます。入来薪能第4回「鳥追
舟」が演じられてから21年に当ります。

入来花水木会では入来薪能の開催を目指
して能舞台の整備をはじめとする諸準備を始
めておられます。由緒ある当地での能楽観賞
が歴史的な考察力、文化力の向上に資するこ
とを期待するものです。

(鹿児島謡曲連合会会長、鹿児島大学名誉
教授、炬ばたセイ談会会長)